



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成 28 年 9 月 26 日

第 16 号

伸びる選手とは ～決意が本物かどうかはあらゆる場面において表れる～

2学期が始まって早くも1か月が過ぎました。2学期は、毎年多くの学校行事が実施されています。特に9月には、すでに終えた白鷺祭（体育祭・文化祭）、そして、明日出発する修学旅行といった大きな行事があります。この1か月、生徒の皆さんは、それらの大きな行事を成功させるための努力はもとより、それ以外でも自分の目標に向かって充実した学校生活を送ってきたことと思います。

さて、今年の白鷺祭のテーマは「白鷺の覚醒」。白鷺祭のパンフレットに掲載されたテーマの紹介文には、常に前向きに成長しようとする市高生らしさがあふれています。「成長したい」という思いがあればこそ、成長することができます。しかし、その思いは強く、本物でなければ中途半端で終わってしまいます。

5年前、なでしこジャパンをFIFA女子W杯ドイツ大会での優勝に導いた佐々木則夫監督が、ある対談で「伸びる選手とは、自分が伸びたいと思うかどうか、到達したい目標へかける思いや決意が本物かどうかということですね。口で言うのは簡単ですが、決意が本物かどうかはトレーニングの状況から私生活のあり方から、あらゆる場面において表れてきますから。」と言っていたのを思い出します。

いろいろなタイプの選手を見てきた佐々木監督の言葉と、これまで数多くの生徒を見てきた私の思いは重なります。たとえ一つのことだけ頑張ったとしても、どこかにいりか減などところがあると伸び悩むものです。

「より高きを目指せ！」——これは、日ごろ私が市高生に送っているメッセージです。皆さんの目の前には無限の可能性が広がっています。資質と能力に恵まれた皆さんのさらなる成長に心から期待するとともに、皆さんの成長を育む学校そのものも、教職員一丸となって、成長、発展していきたいと考えています。

笑顔と熱気あふれる「白鷺祭」！

今年の白鷺祭も大成功！創立43年目（昭和49年開校）を迎えた本校の体育祭、文化祭の歴史を紐解くと、第1回の体育祭は昭和49年に、第1回の文化祭は昭和51年に開催されました。文化祭は当初10月に開催され、当時は「神無祭」と呼ばれていました。第4回から体育祭と文化祭を合わせて「白鷺祭」という名称になっています。

体育祭 ～予定当日の実施は5年ぶり！～

9月開催の本校の体育祭は、長い歴史の中で雨天順延や中止になったことも少なくないようです。何しろ9月1日は、例年、台風が多いと言われる「二百十日」（立春から数えて210日目）にあたります。しかし、閏年の今年は、二百十日が8月31日だったこともあってか、何と5年ぶりに予定通りの9月1日（木）に実施できました。

本校の体育祭は、前年度の振り返りが終わるとすぐに次年度の体育祭に向けて始動。体育祭実行委員長を中心に何か月も練りに練り、準備を重ねてつくりあげます。今年は新たに「看板賞」を新設。昨年に引き続き、赤、青、黄の3団に分かれての熱い闘いです。

闘いはすでに開祭式から始まっています。各団、全力疾走で集合。そして、競技や応援パフォーマンスだけでなく競技応援でも各団力いっぱい応援を繰り広げました。



「応援賞」の青団パフォーマンス

テーマ：白鷺の覚醒

これまで私たちは、市ケ尾高校の校風である「文武両道」を達成するために、日々学習や部活動に加え、様々な学校行事に力を入れてきました。

今回で41回目の白鷺祭を迎えます。私たちは、節目の第40回から新たな出発をして、毎年進化しようとしています。「今回の白鷺祭を通して市高生がより覚醒する」というイメージでこのテーマにしました。

これからも「市高最高」を受け継いで、市高生は更に成長していきます。

（第41回白鷺祭パンフレットより）



団長3人を中心に、肩を組み校歌を歌いながらの大円陣。

騎馬戦は、男子も女子も迫力満点。大将戦も大いに盛り上がります。部活動対抗リレーでは、どの部もコスチュームやバトンに工夫を凝らして力演！怪演？今年は教員チームも出場。

体育祭実行委員のオファーを受けて私も参加しました。これまでもリレーには何回か出ましたが、100mを走ったのはホントに久しぶり（約20年ぶり!?!）。周囲からは怪我を心配されましたが、無事完走した後は気分爽快でした。

午後の部最初の応援団によるパフォーマンスは体育祭の見どころ。多くの注目が集まります。今年の団長は3人も女子。団長を中心に、夏休み中も大勢の生徒がパフォーマンスの練習や衣装づくり、看板制作に励みました。3年生は受験勉強との両立でたいへんだったことと思います。多くの困難を乗り越え、仲間とともに作り上げたパフォーマンスは、演技も衣装も甲乙つけがたい出来栄でした。

体育祭の最後を締めくくるのは、全校生徒による校歌斉唱。1,200人がグラウンドいっぱいに円陣になって肩を組



新設された「看板賞」は青団



クラス対抗リレー（1年）

み、肩を揺らしながらの大熱唱。実に感動的な光景です。市高生としての一体感、そして大きな感動は、何年経っても心に残ることと思います。市高生には「青春」という言葉がよく似合います。体育祭の最終盤には雨を心配しましたが、天気も持ちこたえ、時間どおりに全ての予定を終えることができました。

◆◆ 接戦を制したのは赤団

各団の成績は、赤団 717 点、青団 651 点、黄団 712 点。総合優勝は、接戦の末、昨年に引き続き赤団。その他の成績は次のとおりです。

応援賞：青 看板賞（新設）：青 色別対抗リレー：青
学年種目：1年10組（ロングジャンプ）、2年9組（台風の目）、3年3組（因幡の白兎）

クラス対抗リレー：1年1組、2年3組、3年6組
部活動対抗リレー：（運動部男子）陸上競技部
（運動部女子）硬式テニス部 （文化部）合唱部
（盛り上がったで賞）サッカー部

文化祭 ～今年も来場者 6,000 人超え～

9月10日（土）、11日（日）の両日合わせた来場者数は、6,061人。今年も、たくさんのご来場、ありがとうございました。

初日、公開前にポニーの丘で行った開祭式は、盛り上げ上手な司会のリードで大いに盛り上がり、体育館・視聴覚団体PRに続いて恒例のジェット風船。色とりどりの風船が大空に飛んでいく、気持ちのよいオープニングです。

どの団体も装飾に工夫を凝らし、デザインに加え、質感や細部にまでこだわり、連日放課後遅くまで残って作り上げた力作揃い。2日目の雨で、塗料の色落ちを避けるため、ポニーの丘の模擬店の屋根の装飾を外さなくてはならなかったのがとても残念でした。



上：開祭式に生徒が集合
下：恒例のジェット風船



生徒書き下ろしの脚本で劇を発表したクラス



ポニーの丘の模擬店。2日目は雨のため屋根の装飾を外しました。本当に残念！

◆◆ 「おやじの会」の根菜たっぷりうどんが大人気

今年度も、PTA主催の休憩コーナーにて体育祭のDVDを上映。テーブルには可憐な花。おにぎりや唐揚げ、飲み物、どら焼きの販売もあり、くつろぎの空間です。

昨年誕生した「市高最高」の焼き印のある市高どら焼きは、ボリュームたっぷりです。今年も、昨年の2倍の1000個を完売。入口ゲート横では、PTAによる飲み物等の販売のほか、おやじの会による根菜たっぷりのうどんが大人気！



「おやじの会」根菜たっぷりうどんが大人気！新たな市高名物になりそうです。

◆◆ 今年の文化祭は地域の公的機関からも参加

今年の文化祭には、横浜市資源循環局青葉事務所と青葉区明るい選挙推進協議会事務局（青葉区選挙管理委員会）の皆さんが初めて参加。ごみ分別ゲームや景品付き福引き、青葉区選挙管理委員会のマスコット「えら坊」による本校「市番星」の投票PRなど盛りだくさんの内容で、テントが賑わいました。「えら坊」の他にも、「イコット Jr」（横浜市選挙管理委員会）、「イーオ」（横浜市資源循環局）など、横浜市のマスコットたちが本校の文化祭に華を添えてくれました。



「えら坊」も登場

◆◆ 後夜祭 ～多才な市高生にびっくり！～

後夜祭では、2000X年の破壊される市高を巧みな映像で演出し、市高の衰退を防ぐために未来から2016年の市高を盛り上げる3人の勇者がやって来るという設定で司会者が登場。「市番星」に輝いたバンドの演奏の他、1ステージ4分程度の持ち時間で、漫才、コント、ダンスなど、多くの生徒が出演しました。特に最後の「41th コラボダンス」は5月から準備を進め、部活単位で総勢96名がダンスを披露。新設された「白鷺賞」（体育祭、文化祭の総合最優秀クラス）の発表（3年3組）もありました。次々に登場する多才な生徒たちに驚きの連続！



パワフルな司会



後夜祭の後は、恒例の花火。あっという間に日が暮れ、予定どおり18時30分に打ち上げ開始。白鷺祭の締めくくりは、円陣を組んでの校歌、そして声を合わせての「市高最高！」。この感動と思い出は、生涯を通しての宝物ですね。



市番星！（参加団体部門別人気投票）

展示実演部門：1年3組「ROUND13」（ゲーム）

模擬店部門：3年3組「伊藤園」（わらび餅）

体育館部門：ジャグリング部

バンド部門：バンドはじめました

装飾部門：3年7組「7's あんみつ」（あんみつ）



新設

地域の方から、心温まる感謝の葉書が届きました

前略 9月3日（土）午前9時頃、ジョギング中、先月の台風9号で、鶴見川遊歩道に残された、流木等粗大ゴミを片付けてくれている、市ケ尾高校生を見かけました。（声を掛けたら部活部員と云っていました。）皆さん、暑い中ありがとうございます。

本来ならば、発生から2週間も過ぎ、河川管理者等が行動を起こすべきところなのに、生徒の皆さんが「今、発生している台風12号が襲来し、残されているゴミが支障となり、併せて氾濫すると大変な被害になると予測しての行動に」地域住民として感謝致しております。

校長先生へ、教職員の方のご指導もさることながら「地域のことを思い行動する」この様な生徒が在籍している、市ケ尾高校を地域住民として誇りに思います。この生徒達が将来の日本を背負ってくれると思うと、元気をもらい、清々しい気持ちになりました。

どうか校長先生からも、本行動に対する住民の気持ちを、生徒達にお伝え下さい。

市ケ尾高校生諸君ありがとうございます。そしてがんばれ。